

地元人材のキャリアアップ・スキルアップ支援

ウェルビーイング指標・データを活用した 人材育成プログラム紹介

DIVERSITY×INNOVATION



新しい発見、新しい結合、新しい価値。
北陸未来共創フォーラム
産学官社プラットフォーム for Innovation challenge

2025年1月30日



地域創生Coデザイン研究所

渋谷 勝也

地域創生Coデザイン研究所とは



地域創生Coデザイン研究所

2021.7月設立

- ・所在地 : 大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82 NTT WEST i-CAMPUS
- ・株主 : 西日本電信電話株式会社 (100%)
- ・代表者 : 代表取締役所長 北山 泰三
- ・従業員数 : 53名 (2023年7月1日現在)
- ・事業概要 : ・地域課題解決コンサルティング、自治体・国に対する政策策定支援
・地域データを活用したデジタルデータビジネス
・上記に付帯又は関連する一切の事業 等



⋮

地域創生Coデザイン研究所の役割

地域創生プロジェクト

B サービス提供事業者
(技術・ソリューション)



NTT西日本
& パートナー企業

サービスを
各地域に提供

B **地域の主体**
(自治体や企業・組織、その連携体)

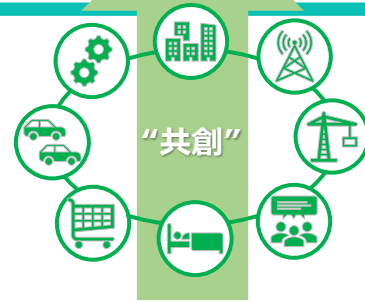


地域課題
の解決

X 地域社会住民



さまざまな分野において
地域の主体の活動をご支援



“共創”

スマート
シティ

観光

医療・
ヘルスケア

脱炭素・
カーボン
ニュートラル

 地域創生Coデザイン研究所

課題探索

シナリオ
構想

実行計画
策定

シナリオ
検証

社会実装

地域創生コンサルティング

本日のテーマ

ウェルビーイング指標・データを活用した 人材育成プログラム紹介

1. プログラム概要
2. ウェルビーイング指標とは？
3. プラグラムにおける検討ポイント
4. プロジェクト検討状況
5. まとめ

1. プログラム概要

はじめに プログラムの目的・効果

➤ 皆さんのキャリアアップ・スキルアップを目的として、以下の4つの観点で効果を期待できます

ウェルビーイングに関する理解 データ活用スキルアップ

ウェルビーイングに関する理解を通じて、**多様な価値観**（ダイバーシティ・インクルーシブ）を理解し、**ウェルビーイング指標**（主観・客観データ）活用スキルを習得を通じて、**地域の魅力を把握するノウハウ**を習得

地域課題解決に向けた 企画スキルアップ

地域課題解決、能登復興に関する施策検討において、**データ活用に加え、各種フレームワークを活用したプロジェクト企画立案に関するスキル・ノウハウ**を習得

地域コミュニティ形成を通じた モチベーション向上による キャリアアップ

地域コミュニティ形成（地域とのつながり）により、自身が地域を構成する**主体**（自分ごと）として、自身の仕事や地域活動を通じた検討を行うことによる**モチベーション向上**（地域に対する愛着＝シビックプライド醸成）を通じた**キャリアアップ**を支援

未来の北陸を創造する 事業創出に繋げる

データによる北陸の理解促進や、政策検討プロセスにおける**地域内外、世代間の交流**を通じて、**新たな観点での北陸発展に資する事業創出**に繋がるよう支援

プログラム全体構成

➤ 全5回のプログラムを以下の内容で実施します

日程	実施内容	目標（成果）	備考
Day1 10月09日(水)	多様なウェルビーイングの学び	ウェルビーイングの理解を通じた お互いの価値観の理解・コミュニティ形成	
Day2 10月30日(水)	データで読み解く北陸	ウェルビーイング指標（主観・客観）の 理解、基本的なデータ分析スキルの習得	
Day3 11月20日(水)	グループワーク	データ・フレームワークを用いた プロジェクト企画検討プロセスの習得	熊本大学・田中先生 意見交換を実施予定
Day4 1月15日(水)			
Day5 2月12日(水)	成果発表	地域課題解決や新たな北陸の創造に向 けたプロジェクト企画の発表・提言	

※実施時間：19:00-20:30

プログラムメンバー（チーム分け）

- 地域企業
- 企業（全国）
- 自治体
- 大学生

チーム	氏名	所属	備考
A	氏名・所属企業団体 非公開		● ● ● ● ●
	渋谷 勝也	(株)地域創生Coデザイン研究所	サポートメンバー
B	氏名・所属企業団体 非公開		● ● ● ●
	都 めぐみ	(株)地域創生Coデザイン研究所	サポートメンバー
C	氏名・所属企業団体 非公開		● ● ● ●
	吉川 彰布	(株)地域創生Coデザイン研究所	サポートメンバー

チーム	氏名	所属	備考
D	氏名・所属企業団体 非公開		● ● ● ● ●
	中村 睦美	(株)地域創生Coデザイン研究所	サポートメンバー
E	氏名・所属企業団体 非公開		● ● ● ●
	松浦 克太	(株)地域創生Coデザイン研究所	サポートメンバー

プロジェクト検討の流れ

【共通テーマ】

北陸の地域課題解決や新たな価値創造に向けた、**共創的なプロジェクト(事業)**を企画する

データで読み解く北陸

Day2 : 10/30

ウェルビーイング指標(主観・客観)の理解、基本的なデータ分析スキルの習得

グループワーク

Day3 : 11/13 ~ Day4 : 1/15

データ・フレームワークを用いた**プロジェクト企画検討**プロセスの習得

成果発表

Day5 : 2/12

地域課題解決や新たな価値創造に向けた**プロジェクト企画の発表**

ワークのインプット / アクティビティ

Well-Being指標ダッシュボード
(デジ庁版 / 北陸版)

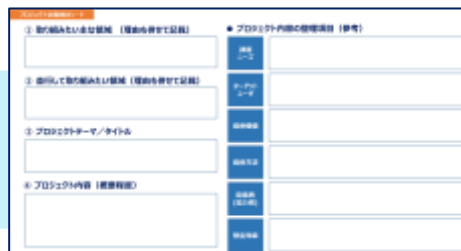
Well-Being指標の
標準的な**分析手法**

Well-Being指標**分析結果**
×
北陸に暮らす市民としての**実感・体感**

熊本大学 田中尚人先生
との**意見交換**

グループごとの
フィールドワーク
(任意)

アウトプット(イメージ)



発表だけに留まらず…
企画したプロジェクトの実行
そして具体的な**「事業」**へ

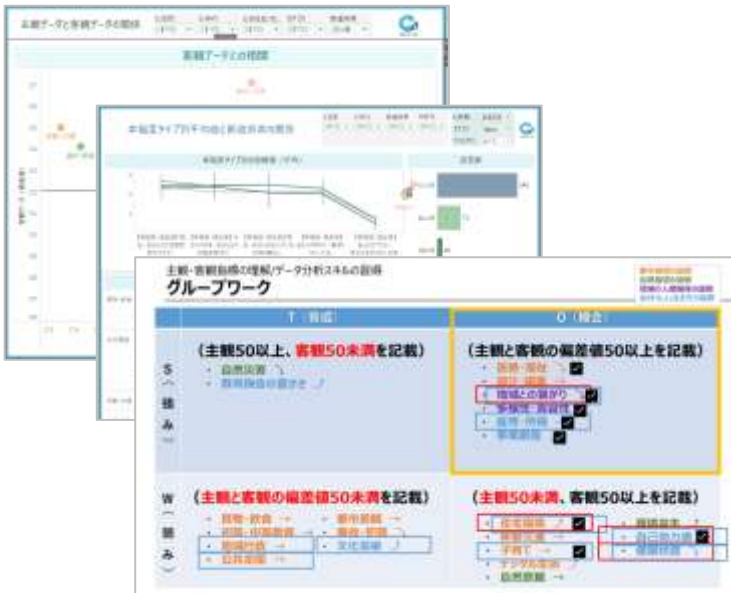
グループワークの流れ

- データ分析結果、チームメンバーの想い、チームメンバーが持つスキル・アセット等を踏まえながら、
- これからチームで取り組みたい領域(テーマ)を選定していきます

①幸福度・生活満足度への相関が高い因子の抽出

(前回WSの続き)

- ・ 前回振り返り
- ・ 24の因子からとくに取組対象地域における重要度の高い因子を見つけ出す



②プロジェクト企画に向けた取組領域(テーマ)の選定

- ・ ①の因子及びメンバーの想いも含め、取組領域を選定する
- ・ 選定した取組領域をもとに具体的プロジェクト内容を企画する

Day3 グループワーク ワークシート

取り組みたい領域の検討(テーマ)検討シート Well-Being指標データ分析シート

- Well-Being指標のデータ(主観・客観)から見える取組対象地域の特徴・課題
- チームメンバーが普段の暮らしや仕事で実感している取組対象地域の特徴・課題
- チームメンバー(個人および所属組織)が持つスキル・アセット等の観点
- チームで取り組みたい領域(テーマ)

③まとめ・発表準備、各グループによる発表

- ・ 取組領域をおよびプロジェクト内容に関するまとめ
- ・ 各グループによる発表

Day 4・Day 5 に向けた課題

プロジェクト企画検討シート

- チームで取り組みたい主要領域 (議題を挙げて記載)
- 並行して取り組みたい領域 (議題を挙げて記載)
- プロジェクトテーマ/タイトル (キーワード3つを記載して記載)
- プロジェクト内容 (議題を挙げて)
- 想定スケジュール

課題	
ターゲットユーザー	
実施地域	
実施方法	
関係者(協力者)	
想定効果	

参考

ワークショップ模様



於：金沢学生のまち市民交流館

参考

ワークショップ模様



2. ウェルビーイング指標とは？

ウェルビーイング指標とは？

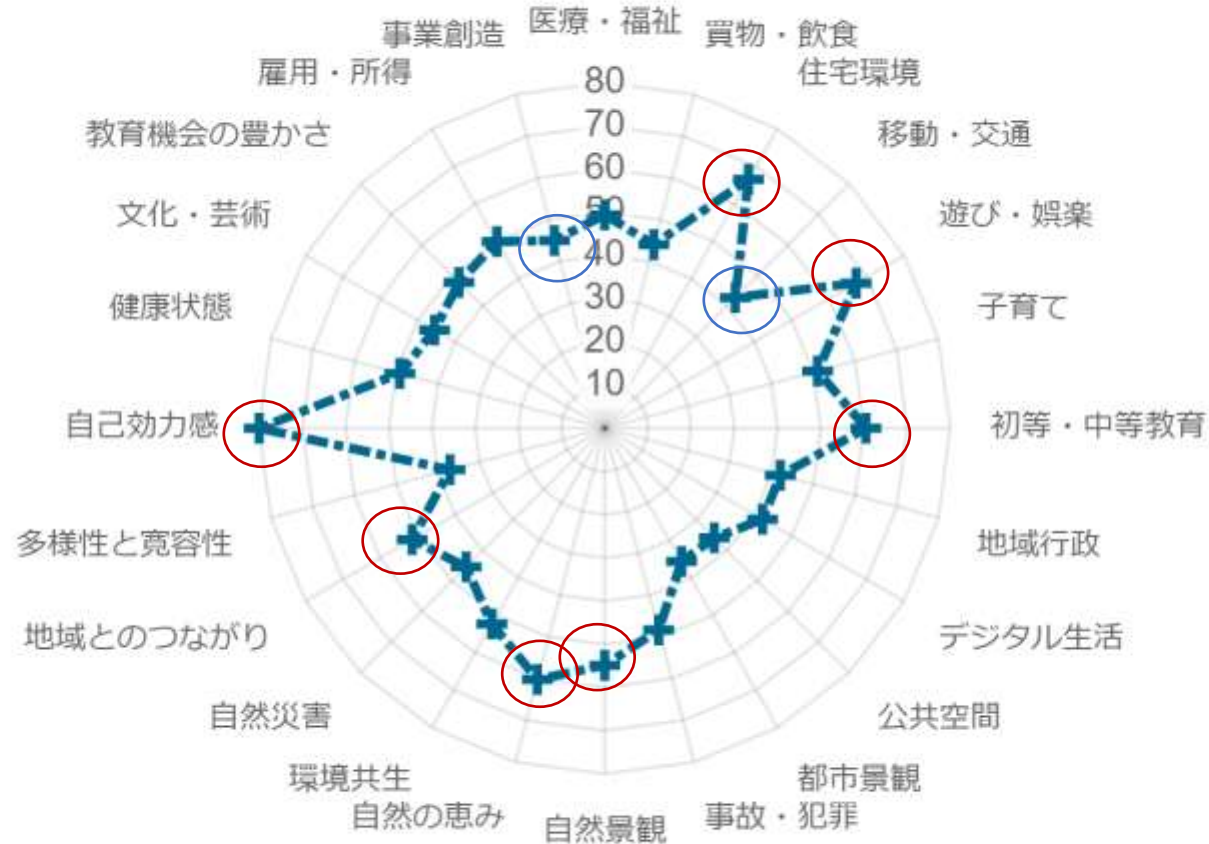
地域幸福度指標（LWC指標 = Liveable Well-Being City指標）

- 客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです。
- 市民一人ひとりが、デジタル化・スマート化は自分にとってどういう意味があるかを理解するためにも、デジタル化・スマート化に伴う心豊かな暮らしの変化を可視化することを目指しています。
- また、デジタル田園都市国家構想では、目指す「心ゆたかな暮らし」（Well-Being）と「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）の実現に向けた取組の指標として、**行政だけでなく産官学、市民を含めた様々なプレイヤーの協力を引き出すツール**として活用されています。

（出典：スマートシティインスティテュート（<https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/index.html>））

客観データ（LWC指標公開情報）

住宅、遊び・娯楽、子育て、自然景観、自然の恵み等、多数の高評価な項目があります。

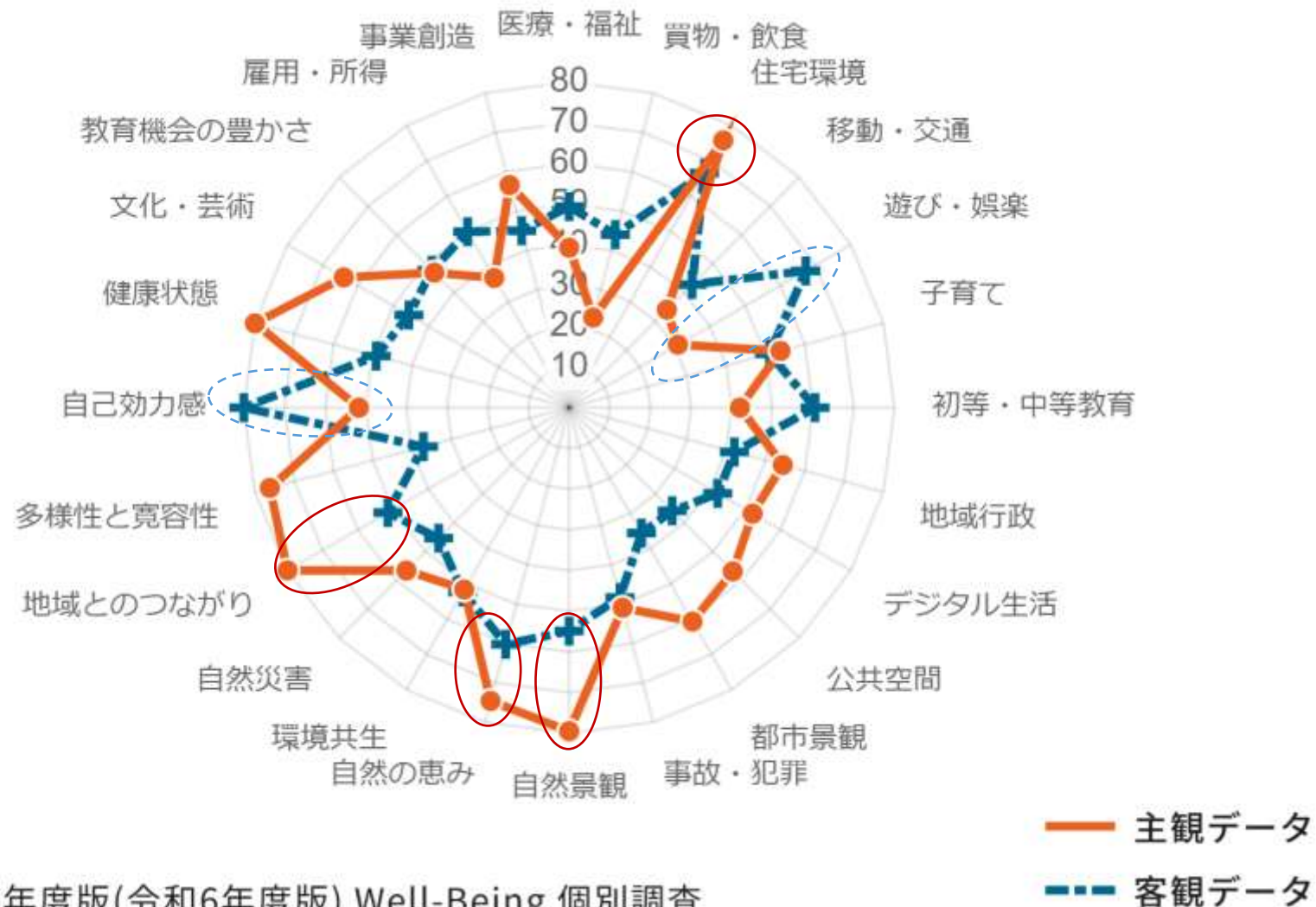


【出典】 2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

--- 客観データ

主観・客観データ (主観データ：個別調査)

住宅環境、自然景観、自然の恵み、地域のつながり等、主観・客観共に高評価な項目があります。



【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 個別調査

ウェルビーイング指標に基づくプロジェクト検討に向けて

①現状可視化

主観、客観指標による北陸エリアの現状を可視化

②気づき

主観指標（アンケート）との相関（ギャップ）分析による北陸エリアの良さ、強みを認識

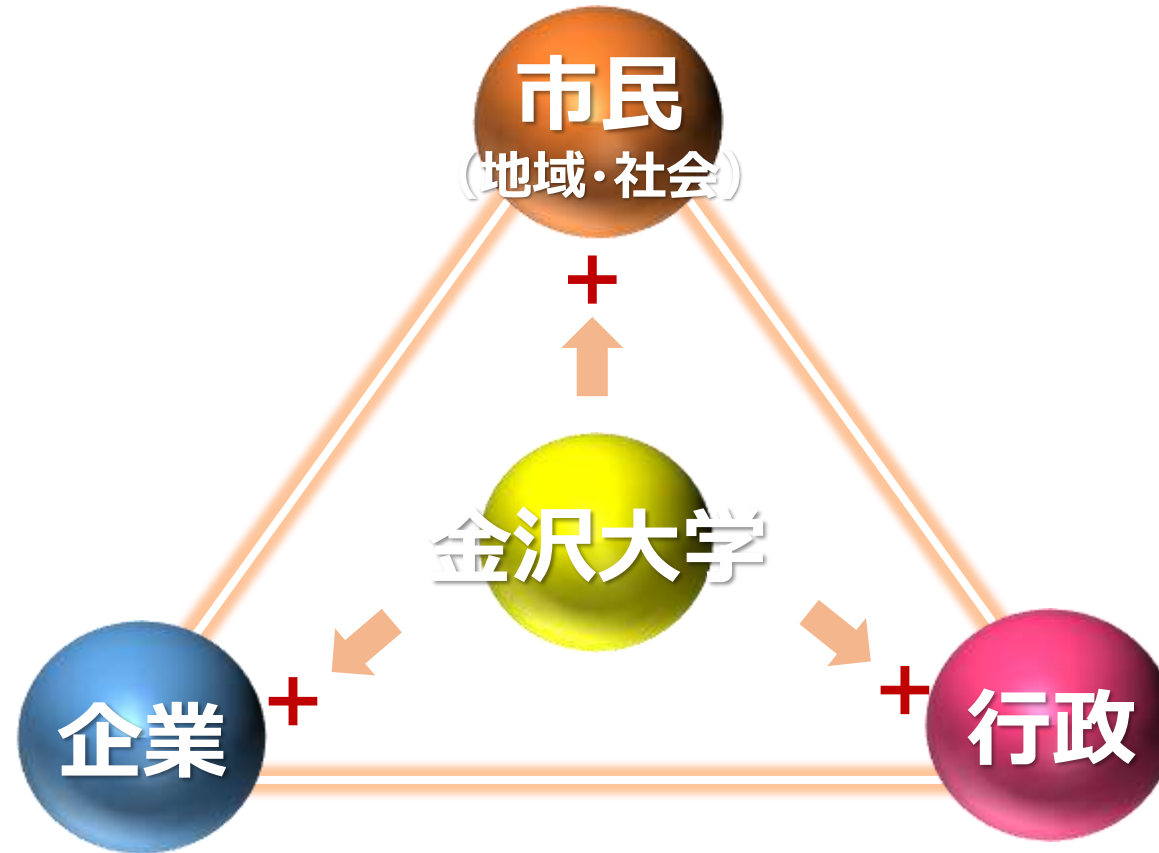
③プロジェクト検討

北陸エリアの良さ、強みを伸ばし、ウェルビーイング向上につながるシナリオの具体化

3. プログラムにおける検討ポイント

プロジェクト検討における視点（共創・連携により得られる価値を考える）

市民（地域・社会）が得られる価値
= ウェルビーイング



企業が得られる価値

行政が得られる価値

プロジェクト検討における視点（共創・連携により得られる価値を考える）

市民（地域・社会）が得られる価値
= ウェルビーイング

市民

【企業メリットの例】

- 地域・街が持つブランド力や好感度、資源、集客力の活用、貢献（影響）
- SDGs、CSR、CSVにつながる企業活動の公益性、正当性がより高まる
- 行政（大学）の有する資源の活用
 - ① 権限（例：公益性向上で、イベント等の許認可が得やすくなる）
 - ② 空間・データ（通常利用できないものの利用が可能に）
 - ③ 地域ネットワーク（調整、マーケティング、実証実験へのリーチ）
 - ④ ステークホルダへの信頼性、安心感（行政関与による向上）
 - ⑤ 国等への補助申請時に、地方自治体との連携を示せる

企業

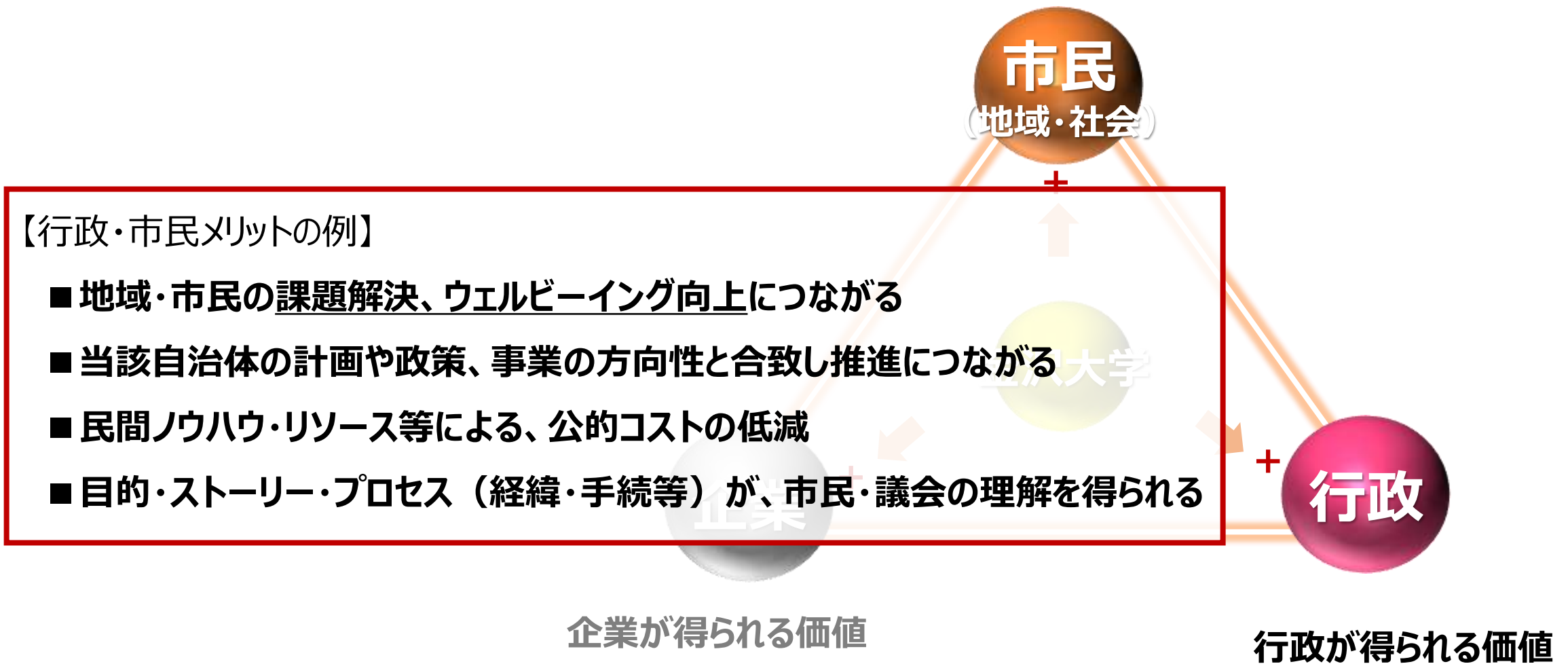
行政

企業が得られる価値

行政が得られる価値

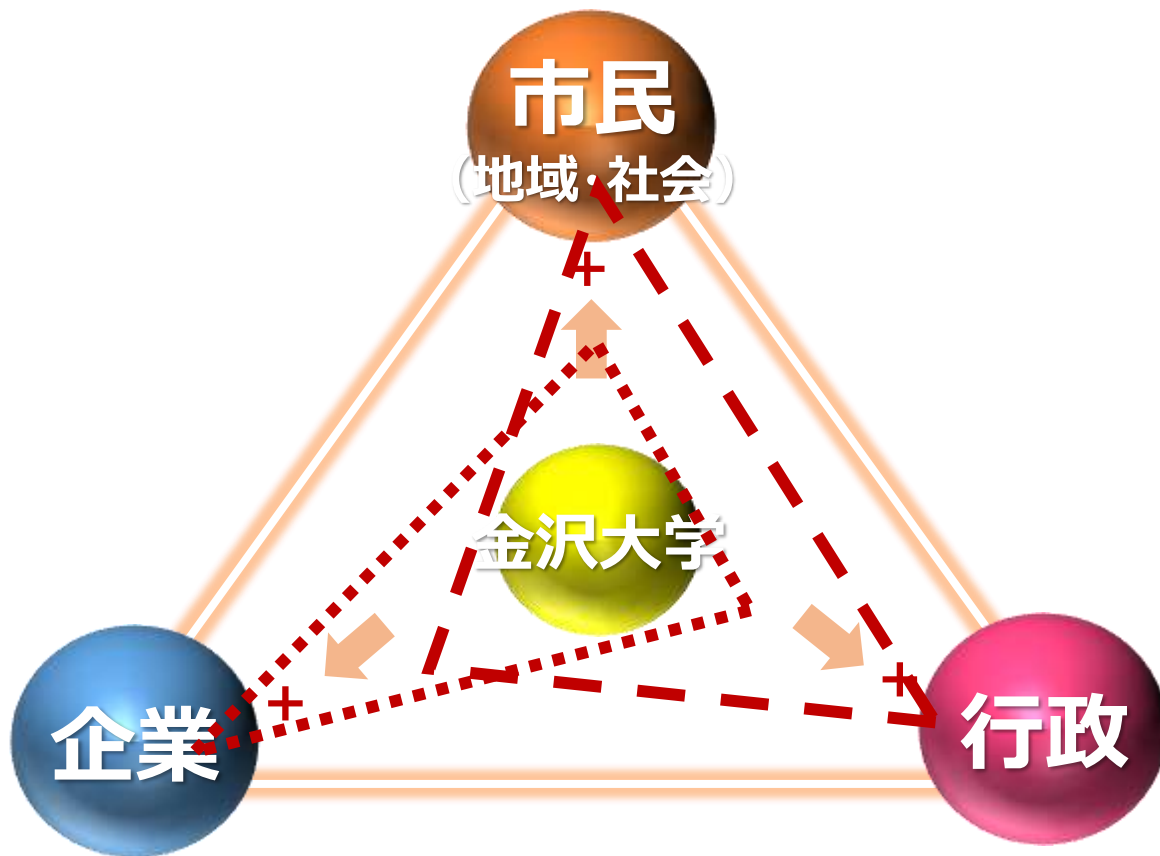
プロジェクト検討における視点（共創・連携により得られる価値を考える）

市民（地域・社会）が得られる価値
= ウェルビーイング



プロジェクト検討における視点（共創・連携により得られる価値を考える）

市民（地域・社会）が得られる価値
= ウェルビーイング

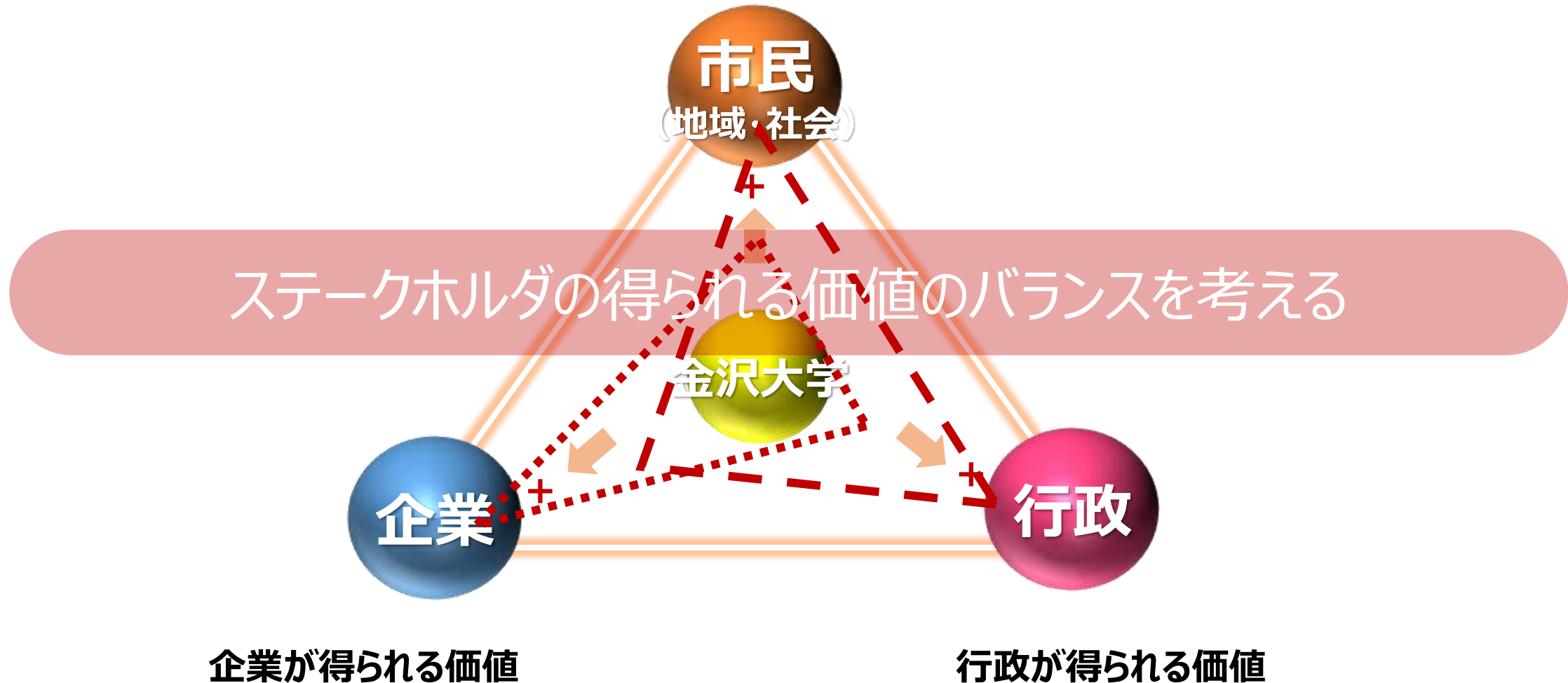


企業が得られる価値

行政が得られる価値

プロジェクト検討における視点（共創・連携により得られる価値を考える）

市民（地域・社会）が得られる価値
= ウェルビーイング



プロジェクト検討における視点（共創・連携に必要な要素）

① 目的（目的の公共性）

行政施策との整合性や、公共性・公益性・市民理解の観点から理屈づけ・ストーリーづけが出来るか？

② プレイヤー（人的資源）

連携のプランニング・オペレーション、各種リソース調達や必要なスタッフに不足はないか？ 役割分担は明確になっているか？

③ リソース（物的・知的資源）

事業に必要な資金・モノ・ノウハウや知識・権限・ネットワーク、法的解釈は揃えられる見込みがあるか？

④ 手続き （適法・適正・適切な手続き）

連携【法的関係】を構築するにあたっての手続き、事業そのものの手続きは適正か？

4. プロジェクト検討状況

プログラム検討状況



プロジェクト検討状況 各チーム検討一覧

チーム	対象エリア	注目因子	企画内容	備考
A	金沢市	雇用・所得 事業創造 地域のつながり	対象：若者（特に大学生） 内容：地域企業を組織化して複数企業の有償 インターンシッププログラムを提供 価値：若者の地域定着、関係人口創出	※詳細、別紙 ※次年度、社会実装 も視野に検討中
B	石川県	遊び・娯楽 事業創造 地域のつながり	対象：元気な60代 内容：趣味をもつ人・教室と、新たなコミュニティに 参加したい人をつなぐプラットフォームの提供 価値：認知症防止による健康増進、地域連携強化	※ニーズ調査実施検討 ※関係原課へのヒアリン グ検討
C	金沢市	教育機会の豊かさ 自己効力感 自然の恵み、文化・芸術	対象：子ども（中学生以下） 内容：学童や子ども食堂等とタイアップした金沢 独自の職業・文化等の体験プログラム提供 価値：地域とのつながり形成、地元就職・定着	※海外観光客との文化 交流も含め検討中
D	白山市	地域のつながり 自然環境／自然景観 （地域の魅力）	対象：30-40代女性（子育て世代） 内容：地域住民のスキル・知見を活かしたイベント コンテンツの開発・提供 価値：女性のまちづくり参画、定住促進	※白山市が活用を進め るコミュニティセンター を拠点に施策実施を 検討
E	金沢市	雇用・所得 子育て 移動・交通	対象：高校生・大学生 内容：金沢市から外に出た若者に、また戻ってきて もらえるような事業を提供 価値：移住・定住促進、関係人口創出	※金沢市 調査統計室 職員の方にて金沢市 のデータを元にした課 題感から検討中

プロジェクト検討状況（Aチーム 対象：金沢市）

ウェルビーイング指標に基づく地域分析や学生の声を基にした事業を企画検討中

現状・課題

地域

- ・県外への就職
（人口流出）

学生

- 街から離れ、
- ・地域企業を知らない
 - ・遊ぶ場所がない
 - ・アルバイト先がない

ウェルビーイング指標

- ・雇用所得
- ・事業創造
- ・地域のつながり

事業（イメージ）



価値

地域

- ・若者の地域定着
（人口流出抑止）

企業

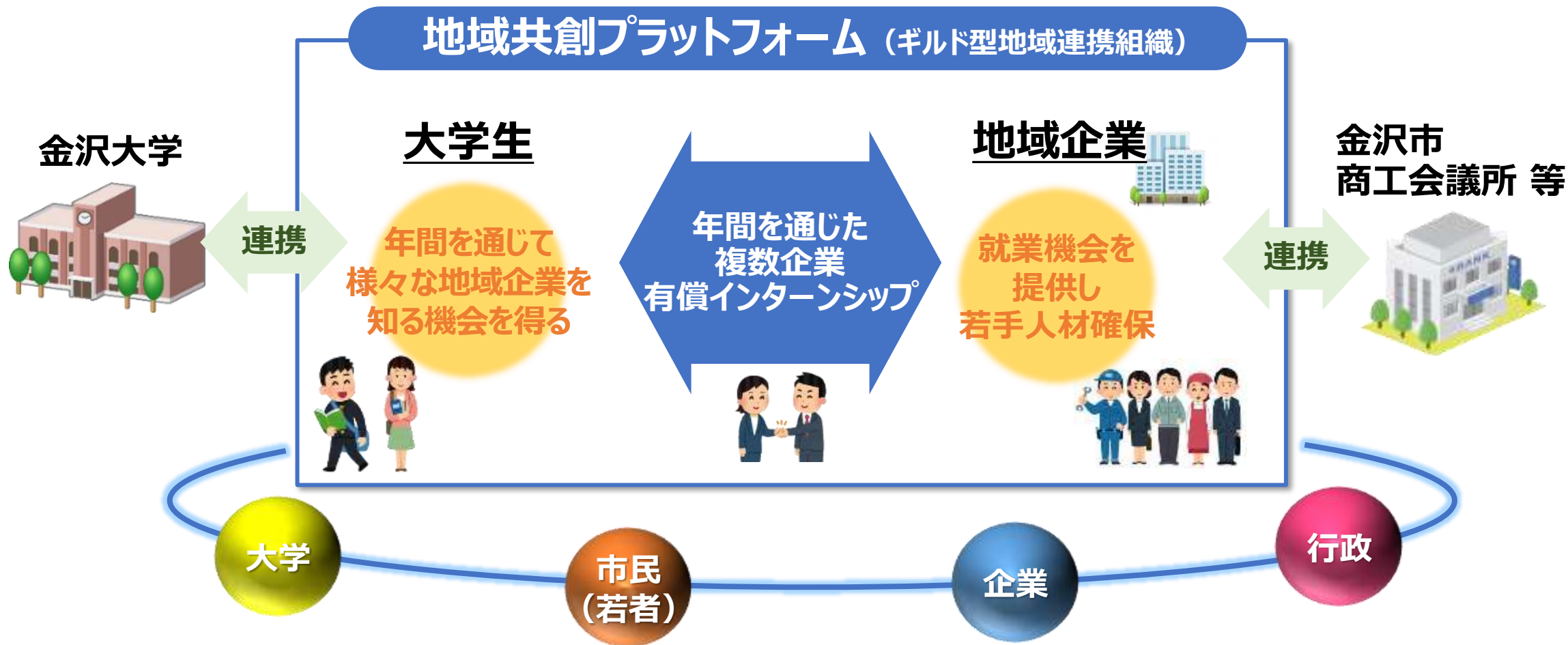
- ・若手人材確保
（人手不足解消）

副次的効果

- ・関係人口創出
- ・地域のつながり
- ・シビックプライド

プロジェクト検討状況（Aチーム 対象：金沢市）

最終的に産官学連携による運営プラットフォームを想定



プロジェクト検討状況（Dチーム 対象：白山市）

ウェルビーイング指標に基づく地域課題から学生の声を基にした事業を企画検討中

現状・課題

地域

- ・高齢者中心の地域活動
（多様性が乏しい）

子育て世代

- ・県外からの移住者増
- ・子育て環境の改善
（地域慣習など相談できる人
頼れる人がいない）

ウェルビーイング指標

- ・地域のつながり
- ・自然環境／自然景観
（＝地域の魅力）

事業（イメージ）

①産学官連携による多世代の交流事業



eスポーツ／デジタルアート体験 等

※地域企業のアセット提供

地域企業に対する市民の認知度向上

更なる市民や地域企業の参画による
交流事業充実

コミュニティセンターを起点とした 地域交流事業

②市民や若者のスキル（得意分野）を 活かした子育て支援プログラム



郷土料理教室、地域の遊び体験

学生（教員免許保有）による子ども預かり 等

多世代の交流から
市民や若者の
自発的な参画へ

価値

地域

- ・多世代の地域活動参画
（世代間交流、女性参画促進）
- ・子育て世代のウェルビー
イング向上
- ・定住促進

企業

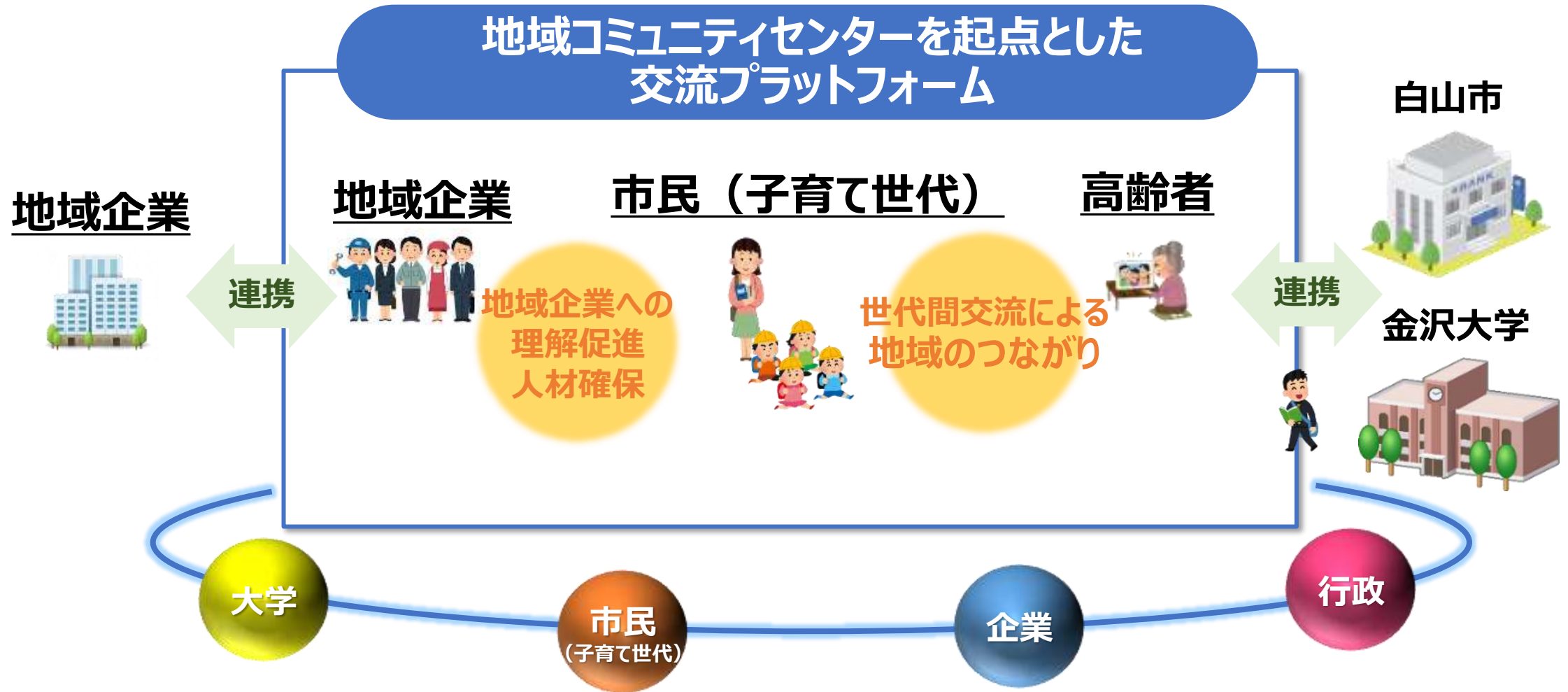
- ・地域での認知度向上
- ・人材確保へのきっかけづくり

副次的効果

- ・コミュニティ形成による共助
（≡コミュニティ・レジリエンス）

プロジェクト検討状況（Dチーム 対象：白山市）

最終的に産官学連携による運営プラットフォームを想定



最後に

まとめ プログラムを通じた価値とは？

より北陸らしい地域活性化の推進
(北陸エリアのウェルビーイング向上)

新たなビジネスチャンスの創出

より質の高いサービスの提供

共創「オープンイノベーション」 = 新結合 ⇔ 内発的发展



ご清聴いただき有難うございました